幼児教育調査研究委員会　報告

幼稚園・保育所における家庭教育支援の在り方

―　「家庭教育のすすめ」（リーフレット）の活用の手引　―

平成23年３月

栃木県総合教育センター

は　じ　め　に

平成18年12月の改正により教育基本法に、新たに「家庭教育」や「幼児期の教育」などが規定されました。ここでは、父母その他の保護者は、子の教育の第一義的責任を有すること、幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることなどが示されました。

しかし、近年の社会変化により、子育ての際に孤立感や不安感を感じる保護者が多くなっています。「保護者・地域住民意識調査報告書」（平成21年3月、とちぎの教育推進委員会）によりますと、保護者（幼稚園・保育所）を対象にした意識調査では、半数を超える保護者が子育てやしつけについて、「どちらかといえば自信がない」「自信がない」と回答しています。また、子育てやしつけに関する悩みや気がかりなこととして、「ほめ方・しかり方」「犯罪や事故に巻き込まれること」「子どもの性格や態度、様子」「友達との関わり方」などを挙げています。

このような状況の中で、幼稚園・保育所における家庭教育支援は新たな展開を求められるようになってきました。幼児教育の専門性を生かした家庭教育支援を行い、保護者とともに子どもを健やかに育てていくことが重要です。

今年度の幼児教育調査研究委員会では、これからの家庭教育支援の在り方について研究を進め、リーフレット「家庭教育のすすめ」と活用の手引にまとめました。

本冊子が、各幼稚園・保育所において家庭教育支援を行う際や保育者の資質向上のための研修等での一助となることを願っています。

最後になりましたが、本調査研究を進めるにあたり、御指導、御助言をいただいた作新学院大学人間文化学部教授　伊達悦子先生並びに御協力いただいた委員の方々に対し、厚く御礼申し上げます。

平成23年３月

栃木県総合教育センター所長

瓦　井　千　尋

目　次

はじめに

第１章　調査研究の概要　・・・・・・・・・・・1

1　目的
2　研究の方法及び内容
3　研究の成果
4　今後の課題

第２章　「家庭教育のすすめ」活用の手引　・・・・・・・・・・・7

1　リーフレット
2　リーフレットの活用法
3　事例集
4　事例集の活用法

事例集

視点　人間関係を築く　・・・・・・・・・・・12
事例１　～あいさつがわり？～　（１歳児）
事例２　～手伝いたい！～　（２歳児）
事例３　～ブロック　とられちゃった～　（３歳児）
事例４　～「ぼくも、いっしょ。」～　（４歳児）
事例５　～「さっきは、ごめんね。」～　（５歳児）

視点　言葉で伝える　・・・・・・・・・・・17
事例６　～喃語（なんご）でおはなし～　（６か月）
事例７　～さっちゃんの「ねー。」～　（１歳児）
事例８　～「ぼくも行ったよ！」～　（２歳児）
事例９　～「嫌なの。」が言えなくて～　（３歳児）
事例10　～「お当番でしょ。」～　（４歳児）
事例11　～「あとで遊ぼうね。」～　（５歳児）

視点　意欲をもってやろうとする　・・・・・・・・・・・23
事例12　～リボン作ったら・・・～　（４歳児）
事例13　～「きれいにたためたでしょう！」～（４歳児）

視点　ねばり強く取り組む　・・・・・・・・・・・25
事例14　～組み体操で～　（５歳児）

視点　ルールや約束を守る　・・・・・・・・・・・26
事例15　～「こうちゃん、ずるいよ！」～　（５歳児）

参考　県内の取組例　・・・・・・・・・・・27

第１章

調査研究の概要

幼児教育調査研究委員会での協議の内容をまとめました。

１　目的

幼児期の育ちについて具体的に考え、それに基づいた幼稚園・保育所における家庭教育支援の在り方について研究し、幼稚園・保育所が家庭教育支援をする際の一助となるリーフレット及び活用の手引を作成する。

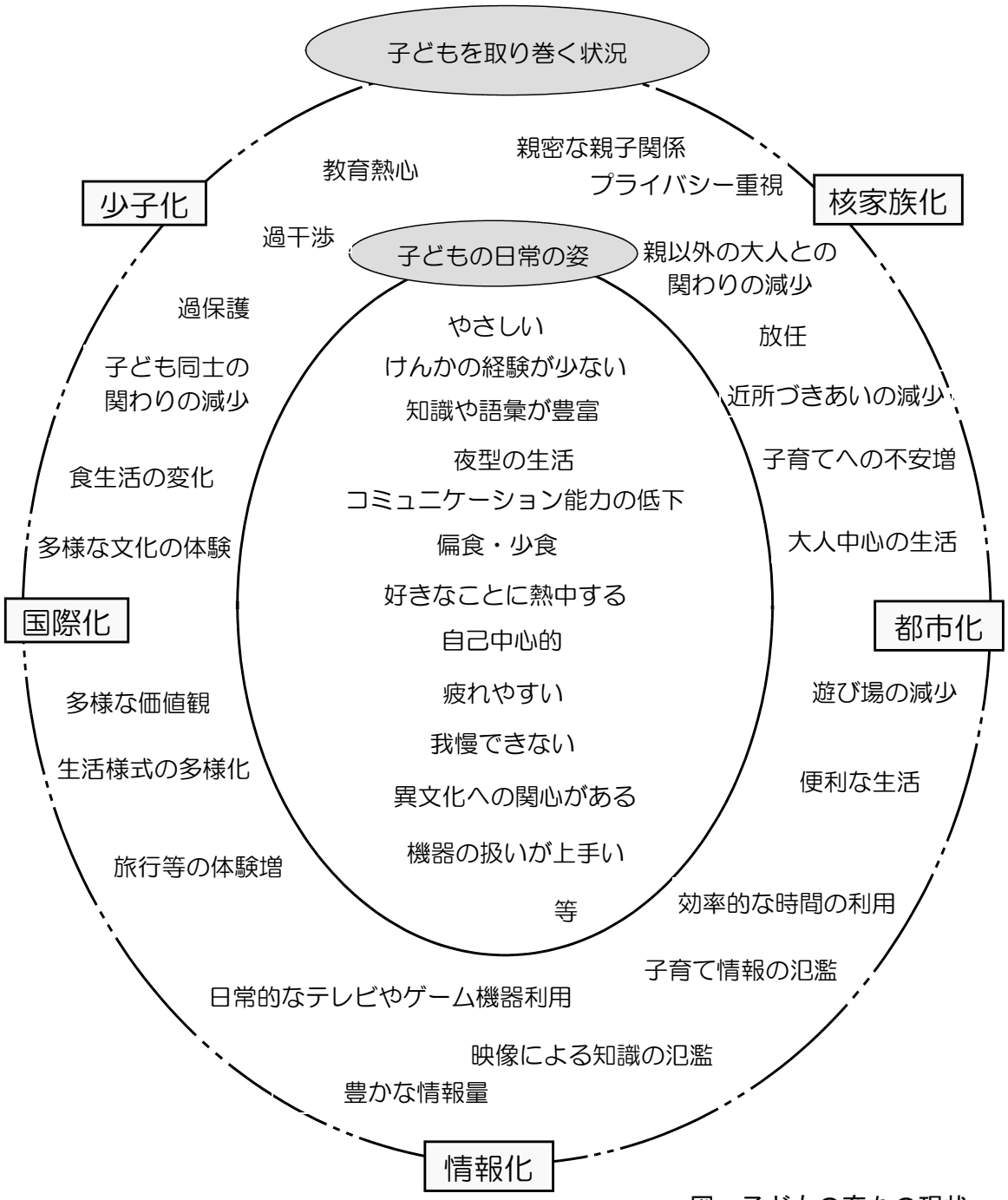
２　研究の方法及び内容

（１）変化したと言われている子どもの育ちを、具体的に挙げる。
（２）家庭教育支援における保護者に伝えたい視点を設定する。
（３）視点に基づいたリーフレット及び活用の手引を作成する。

3　研究の成果

（１）子どもの育ちの現状

子どもの育ちが変化した社会的背景として、少子化、核家族化、都市化、情報化、国際化などがあると言われている。その背景を受けて、幼児を取り巻く状況や子どもの日常の姿がどう変化してきているのか、委員会で協議した。それらの主なものを「子どもの育ちの現状」として下の図にまとめた。



図：子どもの育ちの現状

（２）保護者に伝えたい５つの視点の設定

子どもの日常の姿から、幼児期に様々な経験が不足していることが明らかになった。このことを踏まえ、幼児期に大切な経験を保護者に具体的に伝え、家庭の教育力を高めていくことが幼稚園・保育所に求められる家庭教育支援の一つの形であると考えた。そこで、 幼稚園・保育所において、保育者が家庭教育支援として保護者に働きかける際に特に重要と思われる視点を設定した。

保護者に伝えたい５つの視点
～家庭教育支援のために～

○　人間関係を築く。
○　言葉で伝える。
○　意欲をもってやろうとする。
○　ねばり強く取り組む。
○　ルールや約束を守る。

（３）リーフレットの作成及び活用

子育ての喜びや生きがいは、子どもの成長とともに、日々成長する子どもの姿に感動して、親も親として成長していくことにある。この「親と子が共に育つ」観点から考えても、幼稚園・保育所が子どもの発達の見通しを保護者に伝えることで、家庭の教育力を高め、幼稚園・保育所と保護者がともに子どもの育ちを支えていく必要性がある。

保護者は、自分の子どもが園でどのように過ごしているかなど、具体的なことに関心をもっている。その関心事を軸に、子どもの行動の意味や発達の見通しについてわかりやすく保護者に伝えることが保育者一人一人に求められている。

そこで、幼稚園・保育所が保護者へ具体的に支援する際の補助資料としてリーフレットを作成した。このリーフレットでは、委員会で設定した視点から「意欲をもってやろうとする」「人間関係を築く」を選び、具体例を挙げた。

また、リーフレットを幼稚園・保育所で効果的に活用するために、活用の手引を作成した。

（４）事例集の掲載について

幼児は日常生活の中で、様々な経験をしている。その積み重ねの結果が、生きる力の基礎となる。その年齢なりの姿やどのような場面で何を経験しているのかを保護者に伝えるための一助として、活用の手引に事例集を掲載した。

なお、この事例集は、園内研修の資料としても活用できるよう工夫した。

４　今後の課題

リーフレットや手引の活用を図ることにより、各幼稚園・保育所による家庭教育支援が充実し、保護者と園がともに手を携えて健やかな子どもを育てる体制づくりをしていくことが必要である。

コラム

ある日の調査研究委員会から

保護者に伝える力をつけたいですね。

効率のよい研修方法を考えたいですね。

研修の時間を確保したいですね。

保育で大切なことを確認しましょう。

メッセージにするといいですね。

調査研究委員会の様子

ひと言メッセージ

子どもは保育者の行動・しぐさをよく見ています。

保育者自身が環境のひとつです。
保育者の子どもへの「温かいまなざし」や、「優しい言葉かけ」によって子どもたちの豊かな心が育ちますよね。

遊びは学びです。

子どもは友達と遊ぶことでたくさんのことを学んでいますね。
例えば、自分の思いばかりを優先していた子が、遊ぶ（関わる）中から友達の思いに気付き、折り合いをつけていくこともその一つですね。

一人一人の育ちを見つめて

同じ年齢でも育ってきた環境や経験により成長に差があります。
特に入園した時期は、一人一人の個人差が大きいですね。個々を見つめて対応することが大切です。

第２章

「家庭教育のすすめ」活用の手引

「家庭教育のすすめ」（リーフレット）を幼稚園・保育所で効果的に活用する方法を紹介します。

1　リーフレット（Ｐ．９～10）

とちぎの幼児がグングン育つ

家　庭　教　育　の　す　す　め

―やさしく元気な子どもを育てるために―

2　リーフレットの活用法

園での家庭教育支援に利用できます。

- ○　保護者会での講話資料
- ○　懇談会での話題材料
- ○　保護者からの相談場面での資料
- ○　園だよりの記事

一つの出来事でも、子どもの発達によって経験していることが異なるということを、保護者に伝えましょう。

発達には年齢による違いや個人差があります。それを理解して子育てをすることの大切さを保護者に伝えましょう。

保護者の役割の一例です。参考にしてください。

幼児教育センターＨＰから
ダウンロードできます。

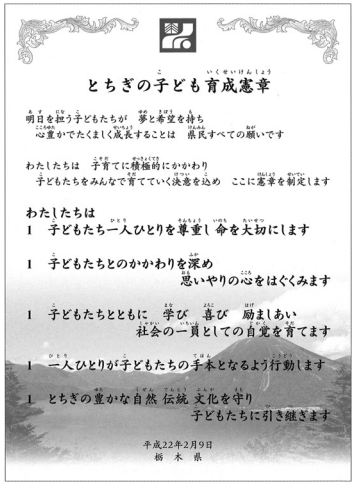
振り返ってみましょう

	YES	NO
○「ありがとう。」「ごめんね。」を気持ちを込めて言っている。	□	□
○子どものとき、親から言われてうれしかった言葉がある。	□	□
○子どものとき、親から言われてやる気をなくした言葉がある。	□	□
○家族みんなで過ごす時間を大切にしている。	□	□
○子どもの前では人の悪口を言わないようにしている。	□	□
○子どもの無理な要求に応じてしまいがちである。	□	□

どう言っていますか?

だから無理だって言ったでしょ!	お手伝いしたかったのよね。
早くしなさい!	がんばってやろうね。
何回言ったらわかるの!	よ〜く聞いてね。

栃木県は、とちぎの子どもを県民みんなで育てるために、「とちぎの子ども育成憲章」を制定しました。



とちぎの子ども育成憲章

明日を担う子どもたちが　夢と希望を持ち
心豊かでたくましく成長することは　県民すべての願いです

わたしたちは　子育てに積極的にかかわり
子どもたちをみんなで育てていく決意を込め　ここに憲章を制定します

わたしたちは
1　子どもたち一人ひとりを尊重し命を大切にします

1　子どもたちとのかかわりを深め
思いやりの心をはぐくみます

1　子どもたちとともに学び　喜び　励ましあい
社会の一員としての自覚を育てます

1　一人ひとりが子どもたちの手本となるよう行動します

1　とちぎの豊かな自然 伝統 文化を守り
子どもたちに引き継ぎます

平成22年2月9日
栃木県

一言メッセージ

子育て中の方へ

作新学院大学　人間文化学部
教授　伊達　悦子

「先生が僕を叱るのは僕のことかわいいと思っているからだよね。」と言った子がいました。こう言えたのは、先生への安心感があったからでしょう。就学前のお子さんの子育ては、波乱の連続かもしれません。分かっているかと思えばそうでもなかったり、思いもかけない行動でハラハラ、ドキドキの連続だったりするでしょう。でも、そうしたことを繰り返しながら人生の基礎工事をしているのです。基礎工事を終えていないと人生の屋台骨が安定しませんので、「待つ」ことを心がけましょう。

子どもは、ご両親の表情に一喜一憂するものです。子どもが安心して頼りにできる「信号機」になれるといいなと思います。信号機は、安全や危険を知らせてくれるものです。叱ることは危険を知らせて身を守るために大切なのですが、それればかりですと、「叱られる自分」を親に見せまいとして隠すものです。ご両親が「自分を守ってくれる」ことを通して、子どもは「自分を大切にする」ことを覚えますし、ご両親の期待に応えたいとも思うのです。その日が来ることを楽しみに待ちましょう。

お子さんの笑顔や何気ないつぶやきなどで、子育ての疲れを癒してください。その癒された表情が、今度はお子さんに安心感をもたらすのです。

とちぎの幼児がグングン育つ　家庭教育のすすめ
—やさしく元気な子どもを育てるために—　　平成23年3月発行

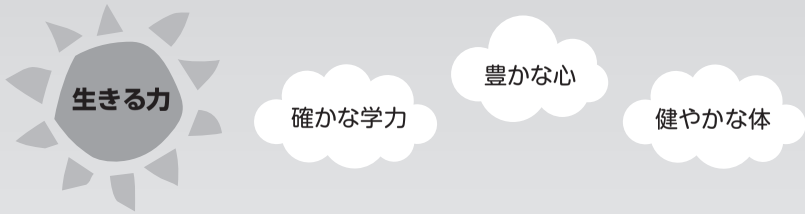
発行者　栃木県幼児教育センター　〒320−0002　宇都宮市瓦谷町1070
TEL　028−665−7215　FAX　028−665−7216
URL:http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/

とちぎの幼児がグングン育つ

家庭教育のすすめ

—　やさしく元気な子どもを育てるために　—

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。日々の生活の中の経験が子どもたちの生きる力につながります。
家庭では、子どもの中に育っている力を受け止めて関わることが大切です。
「やろうとする意欲」や「人とかかわる力」を育てる保護者の役割について考えてみましょう。



とちぎの教育が目指す子ども像

○心身ともに健康な子ども
○主体的に考え表現できる子ども
○ねばり強く頑張る子ども
○自他の存在を尊重し協同する子ども
○すすんで社会とかかわり行動する子ども

栃木県幼児教育センター

すすんでやろうとする子

「うちの子、すぐに『やって！』と言うのよ。」
「あら、うちは、なんでも『やりたい！』なの・・・」

自分で靴を履こうと頑張るAちゃん

やっと園に慣れて、自分で履こうとしているわ。

ごめんね。時間がないから、待てないの。

今日は履けるまで待っていよう。

座って履けるように、台を用意しようかな。

そろそろ左右の違いに気付くかな。

Aちゃんを見て、他の子も真似してほしいな。

あきらめずに頑張るようになったのね。

保護者の方のこのような声をよく耳にします。

子どもの、もう一つの生活の場である幼稚園や保育所。
このようなとき、先生は子どもの気持ちをどう受け止めるのでしょう。

子どもの育ちや発達に沿って、受け止め方も変わってくるのですね。

友達とかかわろうとする子

「うちの子、園でお友達とけんかしていないかしら？」

けんかをしたBちゃんとCちゃん

やっと関わりが出てきたわ。

何が言いたかったのかな。

どちらにも言い分があるのよね。

初めて「いや！」って言えた。すばらしいわ。

お友達が仲裁に入るといいな。

どうやって仲直りするかな。そっと見ていよう。

お互いに言いたいことを言えるのが大切よね。

このような時期です

おおむね3歳

身の回りにある、はじめてのことにも挑戦しようとする気持ちが芽生えます。時間がかかっても自分でやったことに満足感を味わいます。着替えや食事など、自分でやりたい、選びたいという気持ちが強く表れる時期です。

おおむね4歳

やりたいことがさらに広がってきます。自分がやったことへの満足が次への挑戦意欲になります。失敗しても、次はどうすればできるだろうと考えます。工夫したり、試したり、新しい方法でやってみようとする時期です。

おおむね5歳

できた、がんばった、やってよかったという気持ちがあふれます。さらに、がんばった自分に自信をもつことが、やろうとする意欲を支えます。様々な知識や経験を生かし、工夫しながら難しいことにも挑戦しようとする時期です。

なるほど

そうなのね

このような時期です

おおむね3歳

やりたいこと、好きなことなど自分の思いがはっきりしてきます。自分の気持ちを様々な方法で表現するようになってきます。それぞれが自己主張をする中で、おもちゃの取り合いなどが起こる時期です。

おおむね4歳

楽しさや嬉しさ、悔しさ、悲しさなどいろいろな思いを経験します。友達との遊びが楽しくなるので、ぶつかり合いも多くなりがちです。また、相手には自分とは違う思いがあることに気付く時期でもあります。

おおむね5歳

様々な友達関係の中で、楽しく過ごすことや思いどおりにならない経験を重ねます。自分の考えを主張しながらも相手の思いを受け入れようとします。トラブルを、自分たちで解決しようとする時期です。

「やろうとする意欲」を育てるには

「やって！」と言う子は、何か不安を抱えているのかもしれません。できたことをほめ、自信をもたせましょう。「やりたい！」と言う子には、その気持ちを大切にして、納得するまで取り組ませましょう。また、失敗して自分に出来ないことがあると知ることも経験のひとつです。結果にこだわらず、やろうとする意欲を認め、子どもが自分で出来るかどうかを見守ることも大切です。

「大好きなお父さん、お母さんのようになりたい！」が子どものやろうとする意欲の大きな原動力になります。生活の中で、子どもたちがあこがれるような姿をたくさん見せてください。

保護者の役割

「人とかかわる力」を育てるには

子どものけんかやトラブルは、人との関わり方を学ぶ大きなチャンスです。友達に伝えたかった本当の気持ちや、仲直りしたい気持ちを受け止める保護者の支えが必要です。解決することを急がず、子どもと一緒に子どもの気持ちに沿った解決の方法を考えることが大切です。

人との関わりをつくったり深めたりする言葉やしぐさはたくさんあります。近所づきあいや出かけたときなどの親の姿を子どもはよく見ています。常に大人自身がその姿を振り返ってみましょう。「ありがとう」や「ごめんね」と気持ちを込めて言ったり言われたりすることを家庭でも経験させましょう。

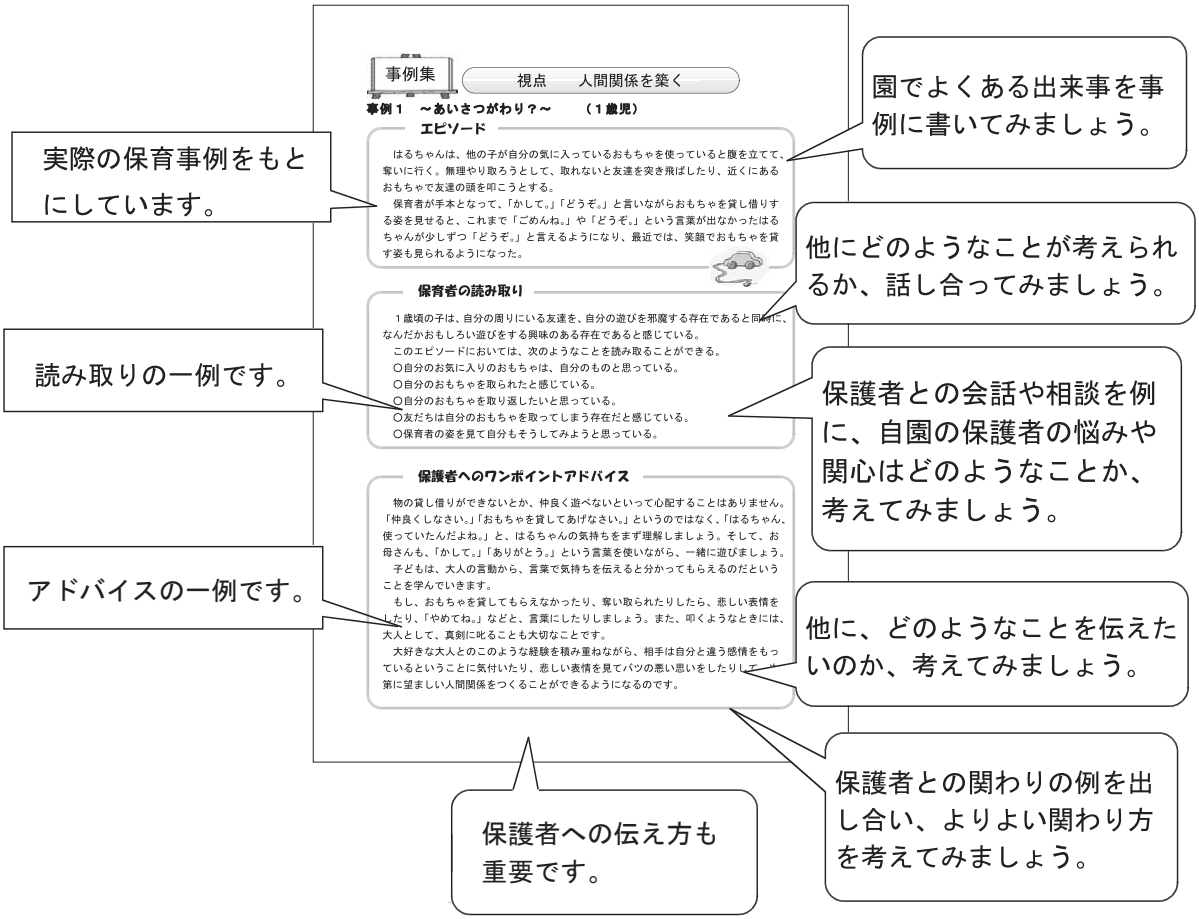
ポイントは 子どもの中に育っている力を信じて、急がずに、じっくり見守り、待つことです。

３　事例集（Ｐ.12～26）

４　事例集の活用法

事例集を活用した研修が行えます。

○　エピソードから子どもの育ちや経験を考える。
○　互いの読み取りを出し合い、子ども理解を深める。
○　保護者への適切なアドバイスについて考える。
○　自園の子どもの様子について考える。



研修は様々な形態でできるね。
○全員で行う。
○学年、クラス等の担当グループで行う。
○打合せ時間の一部分で行う。

幼児教育センターＨＰから
ダウンロードできます。

事例集

視点　　人間関係を築く

事例１　～あいさつがわり？～　　（１歳児）

エピソード

　はるちゃんは、他の子が自分の気に入っているおもちゃを使っていると腹を立てて、奪いに行く。無理やり取ろうとして、取れないと友達を突き飛ばしたり、近くにあるおもちゃで友達の頭を叩こうとしたりする。

　保育者が手本となって、「かして。」「どうぞ。」と言いながらおもちゃを貸し借りする姿を見せると、これまで「ごめんね。」や「どうぞ。」という言葉が出なかったはるちゃんが少しずつ「どうぞ。」と言えるようになり、最近では、笑顔でおもちゃを貸す姿も見られるようになった。

保育者の読み取り

　１歳頃の子は、自分の周りにいる友達を、自分の遊びを邪魔する存在であると同時に、なんだかおもしろい遊びをする興味のある存在であると感じている。

　このエピソードにおいては、次のようなことを読み取ることができる。

〇自分のお気に入りのおもちゃは、自分のものと思っている。
〇自分のおもちゃを取られたと感じている。
〇自分のおもちゃを取り返したいと思っている。
〇友達は自分のおもちゃを取ってしまう存在だと感じている。
〇保育者の姿を見て自分もそうしてみようと思っている。

保護者へのワンポイントアドバイス

　物の貸し借りができないとか、仲良く遊べないといって心配することはありません。「仲良くしなさい。」「おもちゃを貸してあげなさい。」というのではなく、「はるちゃん、使っていたんだよね。」と、はるちゃんの気持ちをまず理解しましょう。そして、お母さんも、「かして。」「ありがとう。」という言葉を使いながら、一緒に遊びましょう。

　子どもは、大人の言動から、言葉で気持ちを伝えると分かってもらえるのだということを学んでいきます。

　もし、おもちゃを貸してもらえなかったり、奪い取られたりしたら、悲しい表情をしたり、「やめてね。」などと、言葉にしたりしましょう。また、叩くようなときには、大人として、真剣に叱ることも大切なことです。

　大好きな大人とのこのような経験を積み重ねながら、相手は自分と違う感情をもっているということに気付いたり、悲しい表情を見てバツの悪い思いをしたりして、次第に望ましい人間関係をつくることができるようになるのです。

視点　　人間関係を築く

事例２　～手伝いたい！～　　（２歳児）

エピソード

給食の時間。まみちゃんが自分でケースからフォークとスプーンを出そうとするが、なかなか出せないでいる。その様子を見ていたなおちゃんが手伝おうとする。だが、まみちゃんは「やだ！だめ！」と手伝わせない。なおちゃんが引き下がらずに、もう一度手伝おうとするが，まみちゃんは「だめ」と言い，なおちゃんを叩いてしまった。なおちゃんは泣き出した。

保育者の読み取り

２歳頃の子は、相手の気持ちを考えて行動することが難しい。

このエピソードにおいては、なおちゃんの様子から次のようなことを読み取ることができる。

〇まみちゃんの様子を見てやりたくなった。

〇手伝おうとしているが、自分のやりたい気持ちが優先して、まみちゃんの気持ちには気付いていない。

〇私だったら上手にできるのにと思っている。

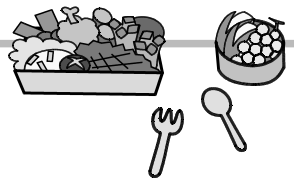
保護者へのワンポイントアドバイス

なおちゃんが叩かれた、と聞かされたときは、驚きましたね。もしかすると、なおちゃんは、お友だちが困っていると思って手伝おうとしたのかもしれませんね。

でも、まみちゃんは、なおちゃんの気持ちに気付いていません。なおちゃんも、自分でやりたいというまみちゃんの気持ちには気付いていませんね。それで、叩かれてしまったのかもしれませんね。まみちゃんは、「自分でやりたいからやめてほしい。」と言葉で言えなかったのですね。２歳児は、そういう時期なのですね。

なおちゃんは、叩かれて、きっと、まみちゃんの気持ちに気付いたと思います。子どもは体験をとおして、相手の気持ちに気付いていきます。

お母さんは、「なおちゃんは、手伝いたかったんだよね。」「叩かれて痛かったね。」などと、お子さんの気持ちを代弁しながら、長い目で見守ってあげてくださいね。



視点　　人間関係を築く

事例３　～ブロック　とられちゃった～　　（３歳児）

エピソード

じゅんやちゃんが、ブロックで作った自動車で遊んでいた。勢いよく走らせていると、タイヤの部分のブロックがはずれ、コロコロと転がった。ちょうどそこにいたみつるちゃんが、拾ったブロックをもって遊び始めた。じゅんやちゃんは、急いで取りに行き手を差し出したが、みつるちゃんは「いやっ。」と言って返さない。じゅんやちゃんは、「ぼくの！ぼくの～。」と泣き、みつるちゃんの頭を叩いた。みつるちゃんも「だめ～。」と言って泣き出すが、ブロックを握ったまま放そうとしない。

様子を見ていた保育者は、じゅんやちゃんに「大好きなタイヤだから返してほしかったんだね。」と確認し、みつるちゃんに伝えた。しばらくすると、２人はとても楽しそうに、一緒に自動車を走らせて遊び始めた。

保育者の読み取り

３歳頃の子は、園生活にも慣れ、好きなことややりたいことがはっきりしてくる。「～したい。」「ぼくがやりたい。」という自分の思いをもち、存分に自己発揮をする時期である。反面、自己主張が強くなり、ときには他の幼児とのけんかやトラブルも発生する。

このエピソードにおいては、次のようなことを読み取ることができる。

〇じゅんやちゃんは、夢中になって遊べるお気に入りの遊びを見つけた。

〇じゅんやちゃんは、大切なタイヤを取られてしまい返してほしいが、自分の複雑な気持ちを言葉では伝えられず、手を出してしまった。

〇保育者を介してみつるちゃんに気持ちが伝わったことで安心し、再び遊び始めることができた。

〇みつるちゃんがブロックを返してくれたことで、一緒に遊べるようになった。

保護者へのワンポイントアドバイス

お友達を叩いてしまったり、仲良く遊べなかったりするのは、とても心配ですね。しかし、ケンカやトラブルは、子どもが成長していく上で、欠かせない経験です。

大切なのは、友達を叩いてしまった事実を責めるのではなく、何故、叩いてしまったのか、何が言いたかったのか、じゅんやちゃんの内面を理解することです。そして、「大好きな車のタイヤを返してもらえなくて悲しかったね。」などと、言葉にできない悔しい気持ちをお母さんが代弁してあげてください。

気持ちが伝わるうれしさを感じたり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わったりすることを繰り返しながら、人間関係を築く土台が作られていきます。

視点　　人間関係を築く

事例４　～「ぼくも、いっしょ。」～　　（４歳児）

エピソード

いくちゃん、かっちゃん、のりちゃんの３人が砂場で大きな山を作っている。まあちゃんは、近くでその様子を見ながら、３人と同じようにスコップを動かしている。何度か近寄って何か言おうとするが、３人は気付かずに遊んでいる。近くにいた保育者が、山に４つのトンネルを作ることを提案し、「まあちゃんは、ここを掘ってくれる？」と声をかけると、黙って掘り始めた。そのうちいくちゃんたちは、「まあちゃん、ここをもっと掘って。」「そっちはどのくらい掘れた？」など、まあちゃんに声をかけたり、トンネルの進み具合を確認したりしてきた。まあちゃんは、何も言わず、うなずいたり笑い返したりしていた。

保育者の読み取り

４歳頃の子は、気の合う友達ができ一緒に遊んだり、同じ遊びをとおして、仲間意識が芽生えたりする時期である。一方で、自分のやりたいこと友達のやりたいことが一致せず、揺れ動くこともある。

このエピソードにおいては、次のようなことを読み取ることができる。

〇まあちゃんは、３人と同じことをしたいという思いから、近くに居続けている。
〇保育者の提案をきっかけに、遊びに加わることができた。
〇まあちゃんは友達から声をかけられると、言葉にはしていないが心地よさを感じている。

保護者へのワンポイントアドバイス

一緒に遊びたいのなら、自分から声をかけなさい・・・と、言いたくなりますね。しかし、まあちゃんは黙っていることが多くても、ちょっとしたきっかけでしっかりと遊びに加わり、その中で自分の役割を果たしています。友達と一緒にいる心地よさを存分に味わっているんですね。何よりも４人が夢中になってトンネルを作っているでしょう。

大人がいつも間に入るのではなく、時には見守ることも大切です。子どもは、いやな思いをしたり、満足したりすることを繰り返しながら、人と関わる力を伸ばしていくのです。友達と一緒にトンネル作りを楽しんだまあちゃんの話をたっぷり聞いてあげてくださいね。

視点　　人間関係を築く

事例５　～「さっきは、ごめんね。」～　　（５歳児）

エピソード

５人の子どもたちが砂場で山を作り、穴を掘ったり道を作ったりしていた。そこにじゅんちゃんがジョウロで水を流し始めた。あっという間に砂山は崩れた。「なにやってるんだよ！山が壊れちゃったよ。」「せっかく基地を作ってたのに。」と、５人は口々にじゅんちゃんのしたことを非難した。じゅんちゃんは、「だって、川を作りたかったんだもん。」と言い返したが、「ここ、基地だから川はいらないよ。」と言われ、下を向いたまま黙っている。まさきちゃんは、「もう、やめよう。」と怒っている。

その時、しょうちゃんが「ねえ、でもこれ本当に川みたいだよ！ここから、また作ろうよ。」と言いながら、川を延ばし始めた。すると、「じゃあ、ここ、新しい基地にしよう！」「じゃあ、じゅんちゃんは、水持ってくる人ね。」などと言いながら、基地作りが再開された。じゅんちゃんは、「うん、分かった。さっきは、崩してごめんね。」と言って、猛スピードで水道に走って行った。しばらくすると、大きな川のある基地が完成した。

保育者の読み取り

５歳頃の子は様々な友達関係の中で、楽しく過ごすことや思いどおりにならない経験を重ねる。自分の考えを主張しながらも相手の思いを受け入れようとするなど、トラブルを自分たちで解決する姿も見られる時期である。

このエピソードにおいては、次のようなことを読み取ることができる。

〇じゅんちゃんは、山を崩すのではなく、川を作りたいという思いで水を流した。
〇友達に非難されながらも、しっかり自分の思いを伝えている。
〇自分の思いと友達の思いが違うことに気付き、葛藤している。
〇友達に受け入れられたことが分かると素直に謝り、遊びに加わることができた。

保護者へのワンポイントアドバイス

お父さん、じゅんちゃんがみんなに非難されている様子を見るのは、つらいですね。「黙ってないで言い返せ。」と言いたくなりますね。しかし、じゅんちゃんには、川を作りたいという思いがあり、そのことをきちんと主張しています。友達も自分たちの状況を訴え、お互いに気持ちをぶつけ合っています。じゅんちゃんは、言い返せないのではなく、下を向きながら、自分の思いと友達の思いの違いを心の中ですり合わせているのです。親であれば、仲良くしてほしいと思うのは当然ですが、ケンカは子どもにとって貴重な学びの場です。いざこざや葛藤する経験を重ねていくことで、我慢したり、気持ちが通じる心地よさを感じたりしながら、様々なコミュニケーションの方法を身に付けていくのです。子どものもつ力を信じて見守り、友達との関わりの中でたくましく育ってほしいですね。

視点　　言葉で伝える

事例６　～喃語（なんご）でおはなし～　　（６か月）

エピソード

６か月になるあきちゃん。保育者が抱き上げて「あきちゃん。」と名前を呼ぶと笑顔になる。繰り返し呼び掛けると、手足を動かす。「うれしいのね。」「そうなの。」と声かけを継続すると、保育者の顔を見ながら、手足をバタバタさせ、「ンママ。」「バ、バ。」「アウー。」と盛んに声を発する。

保育者の読み取り

この頃の子どもは、ba、ma などの音を抑揚をつけたり、リズムを変えたりと様々な発声をするようになってくる。

このエピソードにおいては、アキちゃんの様子から次のようなことを読み取ることができる。

〇身近な大人の顔がわかるようになってきた。
〇大人との関わりを喜び、応答しようとしている。
〇自分に対して、話しかけられたり、笑いかけられたりしていることがわかり、応答している。
〇大人が繰り返し関わることで安心し、自ら喃語（なんご）を発するようになる。

保護者へのワンポイントアドバイス

園でも保育者との声のやり取りが多くなってきましたよ。保育者を信頼して、安心して過ごしているのだと、私たちも嬉しく思っています。あきちゃんは、言葉の意味はわからなくても、身近な大人の声の抑揚やリズムを心地よく感じています。その心地よさがあきちゃんの安心感につながっているのですね。

あきちゃんは泣いたり、笑ったりの表情の変化や手足の動き、喃語（なんご）など全身で自分の欲求を表現しようとしています。「アー、ウー」もあきちゃんにとっては意味のある言葉です。よく聞いてあげましょう。そして、それはあきちゃんとの大切なコミュニケーションですから、一つ一つに声や笑顔で応えてあげてくださいね。

また、子どもは大人の声の出し方を真似することで、声の出し方が上手になっていきます。視線を合わせて話しかけましょう。あきちゃんにとって言葉との出会いの時期ですね。やさしく、温かい言葉をたくさんかけてあげたいですね。

視点　　言葉で伝える

事例７　～さっちゃんの「ねー。」～　　（１歳児）

エピソード

さっちゃんは最近、「ねー。」という言葉をよく口にする。

自分より月齢の低い子のそばに行き、保育者をまねて頭をなでながら「ねー。」、同じおもちゃを手にした友達と顔を見合せて「ねー。」、給食を食べながら「ねー。」と繰り返している。

保育者が「鼻が出ちゃったね。」「ティッシュでふきましょうか。」と声をかけると、ティッシュの箱のところに行き、ティッシュを鼻にあてて「ねー。」と言う。

今のさっちゃんにとって、一日が「ねー。」で始まり「ねー。」で終わる感じである。

保育者の読み取り

この頃の子どもは、自分のしたいことを楽しむようになる。

このエピソードにおいては、次のようなことを読み取ることができる。

〇自分以外の人、身近な人への興味や関心が出てきている。

〇日頃、近くにいる保育者の真似をしている。

〇保育者の言葉の意味を理解し、自分なりに行動しようとしている。

〇「ねー。」を気持ちを伝える言葉としてとらえ、使っている。

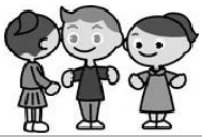
保護者へのワンポイントアドバイス

身近な人に対しての興味が出始め、盛んに周りの人に「ねー。」と話しかけたり、関わろうとしたりしています。とてもすてきなことですね。

さっちゃんがいろいろな思いをもって「ねー。」を言っていることを分かってあげてくださいね。そして、さっちゃんが「ねー。」で言おうとしていることを「かわいいね。」「同じね。」「おいしいね。」と様々な言葉で返してあげてください。

また、私たち大人の使う言葉の意味が少しずつ分かるようになってきていますね。分かりやすい言葉でたくさん話しかけたり、子どもの言葉を補ってあげたりしましょうね。

視点　　言葉で伝える



事例８　～「ぼくも行ったよ！」～　　（２歳児）

エピソード

２歳児の保育室はにぎやかである。月曜日の朝、けんちゃんが「きのう、遊園地に行ったんだ。」と言うと、昨日は家で過ごしたとしちゃんが「ぼくも行った。」「パパと行った。」と言って話が広がっていった。

午後、としちゃんは同じクラスのようこちゃんに「おむすびころりん」の絵本を読んであげていた。保育者がやるように絵本を机に立てて開き、１ページずつめくりながら「おじいさんがいました。」「おっこちました。」と自分なりに話を作っていた。

保育者の読み取り

友達の言葉を聞いて「ぼくも〇〇した。」「わたしも△△だった。」と応じることが増えてくる時期である。

このエピソードにおいては、次のようなことを読み取ることができる。

〇自分の知っている単語をつなげ、言葉にして伝えようとしている。

〇想像や願望の混じった話をしている。

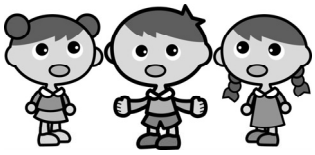
〇保育者になったつもりで絵本を友達に見せている。

保護者へのワンポイントアドバイス

お母さん、今日は友達と嬉しそうに遊園地の話をしたり、絵本を見せたりしていましたよ。

今の時期は、以前に行った遊園地のことを思い出したり、行きたいという願望があったりすると「行った。」という言葉になることがあります。言葉を口にしたり、友達と同じような話を交わしたり、やりとりしたりすること自体が楽しい時期なのですね。

だから「昨日は行っていないわよ。」と正すのではなく、楽しく聞いてあげてくださいね。園でも、保育者が一緒に楽しむことで、言葉で表現する楽しさを十分経験させたいと思っています。



視点　　言葉で伝える

事例９　～「嫌なの。」が言えなくて～　　（３歳児）

エピソード

園庭遊びで人気のある滑り台。今日も８人の子どもが、滑り終わると、また、列に並び楽しく遊んでいる。あきちゃんとけんちゃんがどちらが先に並んだかで順番の取り合いになった。「僕が先にきた。」「私の方が早かった。」と言い合い、自分が列の前に行こうと小競り合いをしている。

そのうちに保育者のところに「あきちゃんが押した。」「けんちゃんが叩いた。」とそれぞれに伝えにきた。「そう、押されたのが嫌だったのね。」「叩かれたのが嫌だったのね。」と気持ちを受け止め、「どうしたらいいだろうね？困ったねぇ。」と言うと、しばらく考えた後に「叩かないで。」「押さないで。」と言ったり、「ごめんね。」と謝ったりしていた。

保育者の読み取り

３歳の頃は、友達同士のやり取りができるようになってくる時期である。
このエピソードにおいては、次のようなことを読み取ることができる。
〇遊ぶ中で友達とのかかわりが増え、言葉でのやりとりをしている。
〇自分の思いどおりにならないことを、保育者に言葉で訴えている。
〇言葉で訴えたことを、保育者に分かってもらうことで、気持ちが満足した。

保護者へのワンポイントアドバイス

お母さん、あきちゃんから「けんちゃんに叩かれた。」と聞いて驚いたでしょうね。遊んでいるうちに、お互いに押したり叩いたりになってしまったんですね。

今日は、保育者に訴えてきたので、話をよく聞いてあげました。そうしたら、気持ちが落ち着いて、自分なりに考えて、「叩かないで。」「ごめんね。」と自分の気持ちを言葉にできました。自分で解決したという自信になったと思います。

言葉で気持ちを伝えることの大切さをたくさん経験してほしい時期ですね。自分の言葉を受け止めてもらう心地よさを感じ、言葉で伝える意欲をもってほしいと思います。お家でも、よく話を聞いてあげてください。保育の中でも、仲直りする言葉、気持ちを伝える言葉があることを少しずつ知らせていますよ。

視点　　言葉で伝える

事例10　～「お当番でしょ。」～　　（４歳児）

エピソード

　給食の準備が始まった。それぞれが手を洗ったり、自分のコップや箸を出して机に並べたりしている。
　日直当番は配膳テーブルを拭き、給食室に牛乳を取りに行くことになっている。自分の準備を一番に終わらせ、席に座っていたえみちゃんが、コップを出そうとしていたたっちゃんに「たっちゃん、お当番でしょ。牛乳を取りに行くんだよ。」と声をかけた。

保育者の読み取り

　４歳になると一日の生活の大体の流れがわかり、自分たちなりに進めていこうとする。しかし、個人差が大きく、取組み方は様々な時期である。
　このエピソードにおいては、えみちゃんの様子から次のようなことを読み取ることができる。
　〇生活の流れに沿って、自分から行動している。
　〇自分の回りの状況を見ている。
　〇自分の気付いていることを言葉で友達に伝えている。
　〇伝えることで、友達の役に立っているという満足感を得ている。

保護者へのワンポイントアドバイス

　お母さん、えみちゃんはよく回りの状況がわかるようになってきましたね。今日は、友達にお当番の仕事を教えていましたよ。回りの様子を見ながら自分なりに判断して、必要なことを言葉で伝えることができるようになってきているんですね。先生が「ありがとう。えみちゃんが声をかけてくれて、たっちゃんも助かったと思うわ。」と伝えたら、とてもうれしそうにしていました。
　家でも、そのようなえみちゃんの言葉に気付いたら、「ママにも教えてね。」や「ありがとう。」「助かったわ。」などの気持ちを伝えてあげてくださいね。

視点　　言葉で伝える

事例11　～「あとで遊ぼうね。」～　　（５歳児）

エピソード

給食・午睡の時間は３～５歳の縦割りグループで生活している。

４月、年長になったたかしちゃんは、午睡前にパジャマに着替えずに遊んでいる３歳児のよっちゃんに、「だめだよ！着替えるよ！」と頭ごなしに言っていた。よっちゃんはなかなか着替えずに、いらいらする様子も見られた。

１０月、よっちゃんに「これで遊びたかったんだよね。でもね、今は着替える時間だから、あとで遊ぼう。一緒に着替えようね。」と伝えるようになり、よっちゃんも納得して着替えるようになった。

保育者の読み取り

年長になると、自分の言い分を言うだけでなく、相手の気持ちにも気付き、思いやるようになってくる。

このエピソードにおいては、たかしちゃんの様子から次のようなことを読み取ることができる。

〇相手の気持ちを理解し、尊重した言葉かけができるようになっている。

〇禁止の言葉でなく、相手がやる気になる言葉かけをしている。

保護者へのワンポイントアドバイス

今日は、年少のよっちゃんの遊びたいという気持ちを受け止めながら、「着替えようね」と誘っていました。よっちゃんの思いや気持ちを受け止められるやさしい心、やることを言葉できちんと伝える力などが育ってきているんですね。嬉しい成長ですね。

お母さんも「お兄ちゃんになったね。」と認めてあげてくださいね。自信がつくと思います。

視点　　意欲をもってやろうとする

事例12　～リボン作ったら・・・～　　（４歳児）

エピソード

まゆちゃんたち３人は、手作りのリボンを頭に付け楽しくダンスをしていた。それを見ていたりえちゃんも、リボンを作って一緒にダンスをしたい様子がありありと見えた。しかし、工作が苦手で思うように作ることができない。隣にいたあゆちゃんは、かわいいリボンを作り終え、これからまゆちゃんたちにまざってダンスを始めようとしていた。りえちゃんは、早くダンスをしたくて、「先生、作って。」と保育者に頼んだ。保育者は、工作が苦手なりえちゃんに寄り添って、うまく作れるよう手本を見せながら助言した。時間はかかったものの、何とかリボンを作ることができたりえちゃんはダンスにまざり楽しく踊っていた。

翌日、りえちゃんは、「もっといろんな物使ってダンスしたい。」と言ってきた。保育者が、ちょっと手本を示すと、りえちゃんは新聞紙を丸めてマイクを作るなど、上手に工作をし始めた。そこには、工作が苦手だったりえちゃんではなく、楽しく紙を切る笑顔のりえちゃんがいた。

保育者の読み取り

４歳の子は、友達の刺激を受けて、やりたいという気持ちが膨らんでくる。しかし、気持ちだけで、うまくいかないことも多い。

このエピソードにおいては、りえちゃんの様子から次のようなことを読み取ることができる。

〇友達が音楽にのって、楽しく活動している姿を見ることで、自分もやってみたいという気持ちになった。

〇楽しい雰囲気の中で、苦手なこともできるかも知れないという気持ちになった。「できて楽しく踊れた。」「みんなと同じものができ、一緒に遊べた。」など満足を味わえた。

〇できないことがあっても、先生が助けてくれることによって、「大丈夫。」、「次はもっと頑張ってみよう。」という安心感や意欲が生まれた。

保護者へのワンポイントアドバイス

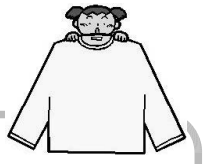
「やって。」と言われたら、まず、大人が手本を見せてあげましょう。そして、それができたときにはたくさんほめて、達成感を味わわせてあげることが大切です。

子どもは一度できても、次にはできないこともあります。そのようなときに「この前はできたのに・・・」とは口に出さないようにしましょう。もう一度、手本を見せ、一緒にやってあげましょう。ただほめるだけでなく、目を見て、頭をなでてあげたり、ぎゅっと抱きしめてあげたりすると、子どもは安心するとともに、もっと嬉しくなります。

「少し難しいけど、これできるかな？」など、難しいと言われると、子どもは「やってみたい！」という気持ちになります。言葉かけ一つで子どもは成長するのです。

視点　　意欲をもってやろうとする

事例13　～「きれいにたためたでしょう！」～　（４歳児）



エピソード

運動会が近付き、毎日、子どもたちは汗びっしょりになって練習に励んでいた。練習の後の着替えの際には、汗のため脱ぎにくいので、保育者が援助しながら、着替えさせていた。ある日、まりちゃんは、うまく着替えることができず、「ボタンやって。」と頼ってきた。保育者が「一番上のボタンは難しいから、お手伝いするね。残りは頑張ってみよう。」と声をかけ、一番上のボタンをとめると、まりちゃんは、自分の手で残りのボタンを留め始めた。

また、保育者は、さきちゃんの様子を見て「ぐちゃぐちゃのまま袋に入っていると、お母さんがびっくりしちゃうから、手でしっかりアイロンをかけてあげてね。」と声をかけると、さきちゃんは脱いだ体操着を上手にたたみ始めた。「さきちゃんきれいにできたね。お母さんみたい！」と言うと、それを聞いていたまりちゃんも上手にたたみ始めて「見て、見て！」と言ってきた。「まりちゃんもお母さんみたい。」と言うと、他の子たちもきれいにたたみ始めた。

保育者の読み取り

４歳の子は向上心が芽生える時期で、認められると意欲的になる。

このエピソードにおいては、まりちゃんの様子から次のようなことを読み取ることができる。

〇保育者の「お手伝いするね。」「残りは頑張ってみよう。」の声かけに、安心感をもち、さらに頑張ろうという意欲がわいた。

〇難しいことにも挑戦してみたいという気持ちになった。

〇きれいにたためることを認めてもらいたいという気持ちになった。

保護者へのワンポイントアドバイス

「全部、自分でやりなさい。」と言うのではなく、子どものできることを探し、引き出す工夫をすることで、子どものやろうとする気持ちが高まります。

取り組めることには個人差があります。子どもにとっては難しそうなことを手伝い、簡単なこと、できそうなことをやらせましょう。その際、全部手伝ったり、全部やらせたりするのではなく、「お母さんもお手伝いするから、〇〇ちゃんも頑張ろうね。」などと言葉を添えて接していくことが大切です。そして、やろうとしていることを励まし、できたことを認めましょう。

視点　　ねばり強く取り組む

事例14　～組み体操で～　　（５歳児）

エピソード

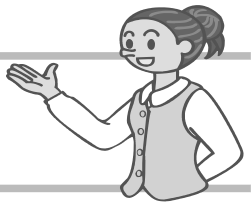
あきちゃんは、運動会の組み体操で、友達の背中の上に両足でバランスをとって立たなくてはならない。ある日、「先生、できない。」と訴えて泣き出した。「もう少しでできるようになるからね。」と励ましても、座りこんで立とうとしなくなった。運動会の１０日前になってもできない。毎朝、泣きながらの登園になった。

３日前の練習のとき、ひでくんが「ぼくが手をつないでてあげるから、やってみて。」と声をかけたところ、あきちゃんはおそるおそるだったが立つことができた。その後、練習に積極的に参加し、運動会当日は、みんなの前で、自信をもって演技をすることができた。

保育者の読み取り

５歳の子は、今までにも失敗しがら何度も挑戦し、達成する経験をしてきた。
このエピソードにおいては、あきちゃんの様子から次のようなことを読み取ることができる。

〇失敗を繰り返すことにより、つらい思いを味わっている。
〇友達や先生に励まされながら、何度も挑戦している。
〇友達が助けてくれることにより、不安を乗り越えることができた。
〇諦めないで挑戦することにより、成功し、喜びを味わった。
〇やり遂げようとすることの大切さを感じている。



保護者へのワンポイントアドバイス

あきちゃんが泣きながら登園するようになったときには、ご心配でしたね。しかし、動揺しないで登園を続けさせたのですね。きっとご家庭で、なぜあきちゃんが泣いていたのか、聞いてみたのでしょうね。

わが子が「できない！」と言ったとき、先生と相談して、子どもが頑張っていける方向を考えてみましょう。そして、頑張っているお子さんを「よく頑張ったねぇ。」などと褒めましょう。

目に見える結果だけではなく、内面の成長を大切に見守っていきましょう。

どのようなことが育っているのか、保護者として理解することが重要です。

視点　　ルールや約束を守る

事例15　～「こうちゃん、ずるいよ！」～　　（５歳児）

エピソード

男児と女児に分かれてドッジボールをしていたときのことである。いつもは男児がリードしているのだが、今日は女児がリードしている。ドッジボールが大好きなこうちゃんは張り切って動いていた。しばらくして、りさちゃんの投げたボールがこうちゃんの足元に当たった。ところがこうちゃんは、一向に外野に出ようとしない。突然、「こうちゃん、ずるいよ！」と外野からゆみちゃんの大きな声。でも、こうちゃんは知らん顔である。

今度は、こうちゃんがりさちゃんにボールを当てた。しかし、りさちゃんは「こうちゃんも外野に出ないから、私も出ないもん。」と出て行かない。こうちゃんは、りさちゃんの顔をじっと見つめたまま動きが止まってしまった。

午後になり、気の合う仲間で再びドッジボールを始めたこうちゃん。遠くから見ていると、ボールを当てられて外野に走るこうちゃんの姿があった。

保育者の読み取り

幼児期は、体験を重ねながらきまりの必要性に気付いていく時期である。

このエピソードにおいては、こうちゃんの様子から次のようなことを読み取ることができる。

〇外野に出なければならないというルールは知っていても、どうしても勝ちたいという自分の気持ちを優先してしまった。

〇ゆみちゃんやりさちゃんの態度から、ルールを守らなければ楽しく遊べないことに気付いた。

〇自分の思いどおりにいかない経験をすることで、相手の気持ちに気付いた。

保護者へのワンポイントアドバイス

こうちゃんは、良い経験をしましたね。

良いか悪いか、すぐに結論付けることが重要なのではなく、まず、こうちゃんの気持ちを「勝ちたかったんだよね。」と受け止めることが大切です。自分の気持ちが分かってもらえたと安心すれば、子どもは、友達と遊びながら、ルールの存在の意味やきまりを守る必要性に気付き、守ろうとするようになります。

でも、すぐにきまりを守れるようになるわけではありません。きまりを守れなかったときのいやな思いや、守って遊んだときの楽しさなどを十分に体験することが大切です。自分の感情をコントロールすることができたり、きまりを守って遊んだりしたときは、「よく頑張ったね。」と、思いっきりほめてあげてくださいね。

参　考

県内の取組例

　現在、多くの幼稚園・保育所では様々な形の家庭教育支援を行っています。
　県内での取組の一例を掲載しますので、内容などを参考にしてください。

未就園児とその保護者に

保育園の庭と子育て支援の専門室を開放し、園の遊具やおもちゃを使ったり、園の子どもたちと遊んだりしながら親子の交流を図る。子育て相談や子育て情報の提供を行う。

対象　乳幼児の保護者
開催　週１回
内容　お花見、季節の制作、バザー、離乳食への誘い、応急手当講習会、プール開放、親子クッキング、人形劇鑑賞会　　等

子育て中の保護者を対象に、子育てに役立つヒントや子どもの健康、食事、遊びについての情報を紹介し、楽しく学ぶ場を提供する。子育て相談に応じる。

対象　保護者
開催　年６回程度
内容　講演会（講師：保護士、教育評論家、医師等）、ベビーマッサージ、ヨガ、廃材を使ったおもちゃ作り、おやつ作り、クリスマスコンサート　　等

保護者が楽しく子育てができるよう交流と遊びの場、相談や話し合いの場、学び合いの場を提供する。

対象　０歳から就学前まで親子等。
開催　月曜から金曜。自由に遊べる。
行事　月２～３回程度。
内容　季節の制作、ふれあい遊び、保健師講話　　等

園の先生以外に、保健師や高齢者、趣味の達人等、地域の人材がたくさんいるのね。

開催回数もいろいろだわ。

在園児の保護者に

クラス懇談会で子どもの保育園での様子をもとに話し合い、学び合う。

対象　全保護者
開催　年３回
時間　ＡＭ１１：００～１２：００
　　ＰＭ　５：４５～　７：００
内容　子どもの様子、関わり　　等

個人懇談会で一人一人の子どもの育ちについて保護者と一緒に考え、援助していく。

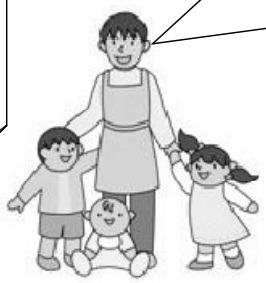
対象　全保護者
開催　年１回
時間　約１時間
内容　子どもの様子、関わり　　等

子育ての不安や悩みを語り合い、
みんなで一緒に子育てを
楽しみましょう。

子どのたちのことを考える
機会となり、皆さんの子育
ての参考になります。

事例をもとに保護者同士が問題を共有し合い、考え合い、視野を広げる。

対象　全保護者
開催　年４回
時間　ＡＭ１０：００～１２：００
　　ＰＭ　５：３０～　７：００
内容　子どもの育ち、親の関わり　　等



保護者同士の仲間作りに
つながるといいですね。

在園児とその保護者に

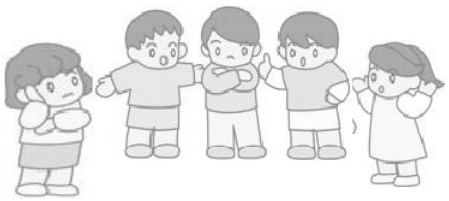
親子活動などを通し、園での子どもの様子を知る。

内容　親子遠足、保育参観・参加、親子クッキング、天体観測、ホタルの集い、親子レクリエーション、親子清掃活動（ぴかぴかとちぎ）
親子コンサート　　等

お父さんのかっこいい
ところを見せるぞ！

親子活動って、ほかの子どもを
みる機会にもなりますね。

家庭でみるのとは違った
子どもの姿に、我が子の成長を
感じてほしいと思います。



平成２２年度　幼児教育調査研究委員会

指導助言

伊達　悦子	作新学院大学人間文化学部教授

研究委員

石川　恵子	つるた保育園主任保育士
岡田　由来子	作新学院幼稚園教諭
菅間　悦子	小山市城東保育所主任保育士
須田　令子	まこと幼稚園教頭
髙野　礼子	那珂川町立小川幼稚園教頭
三鬼　清美	バンビーニとよさと主任保育士
小森　孝子	宇都宮市子ども部保育課係長

事務局

青山　佐知子	栃木県教育委員会事務局学校教育課指導主事
増田　眞千子	栃木県総合教育センター幼児教育部部長
松本　良雄	栃木県総合教育センター幼児教育部部長補佐
永井　弘美	栃木県総合教育センター幼児教育部副主幹
鈴木　智恵	栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事
髙木　恵美	栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事
青木　正子	栃木県総合教育センター幼児教育部顧問
鈴木　喜佐子	栃木県総合教育センター幼児教育部幼児教育専門員
瀧田　守	栃木県総合教育センター幼児教育部幼児教育専門員

（所属・職名は平成23年３月現在）

参　考

○平成17年１月　「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申）」（中央教育審議会）

○平成20年４月　「保育所保育指針解説書」（厚生労働省）

○平成20年10月　「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）

○平成21年３月　「保護者・地域住民意識調査報告書」（とちぎの教育推進委員会）

幼稚園・保育所における家庭教育支援の在り方
― 「家庭教育のすすめ」（リーフレット）の活用の手引き ―

発　行　　平成23年３月
栃木県総合教育センター　幼児教育部
（栃木県幼児教育センター）
〒 320 － 0002　栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
TEL　028-665-7215　　FAX028-665-7216
URL http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji

いきいき栃木っ子３あい運動
学びあい　喜びあい　はげましあおう